

ヒマラヤを越えるツル

・雨季明けの好天告げる言録・

世界の未踏峰になかで最も高いヒマラヤ・ナムチャバールワ(七七ハーヴ)の初登頂に成功した
とういニュースが三千日に届いた。昨年の登頂断念の経験を生かして今年は、雨季から乾季に移るモンスーン明けの好天を狙ったのが功をそそうして日中合同登山隊の一チムが頂上に立つた。ヒマラヤ登山のシーズンは春はモンスーンの雨季入りの直前の五月はじめと秋雨季明けの十月中頃となる。秋はこの雨季明けの好天を予想することが成否の別れ道となるが、この劇的な変わり目の鍵を「ヒマラヤ越えのツルの群れ」が知させてくれるという。

一九八一年、ヒマラヤの錫峰・マナスルの登山隊の登頂成功の前日、数百羽のツの群れが次々と八千メートル級の稜線を南に向かつて越えて行くのが確認された。果たして、あくる日は青空が広がり絶好の登山日和となつた。五年前のマナスルの秋季初登頂、アンナブルナ峰の成功の時もヒマラヤ越えのツルの華麗な舞いが雨季明けの好天の吉兆となつた。

ツルの渡りはユラシヤ大陸の最深部からパミール山脈、天山山脈を越えてタクラマカン砂漠を横切りクンルン山脈を飛び、ジェット気流を横ぎりながらヒマラヤ山脈を越えてインドに達する數千キロメートルの過酷な旅となる。ジェット気

流が南下してヒマラヤを強風で覆われる前で雨季が明ける直前の例年十月十日頃から一週間がヒマラヤ越えの渡りの絶好の季節となる。ツルの群れはチベット高原のどこかの湿原で羽根を休めながらわずかなチャンスを静かに待つているのだろうか。

日々の上層天気図を眺めていると十月中旬にわずかな期間だけ好天となつたが、ぬけるように澄んだ青空を背景に白銀に輝く稜線を越える白い隊列は、今年も無事に越えただろうか。